

JX9500-2W 及び JX9500-4W の 18トラックライト機能について

1. 概要

JX9500-2W 及び JX9500-4W は、36トラック装置（IBM3490E 互換機）において、イレーズ（消去）ヘッドを搭載することにより、18トラックライト機能（IBM3480 互換フォーマットに準ずる書き込み）を実現しました。

完全互換を保証するものではありませんが、実運用上問題のない程度のご使用が可能です。

2. 互換実績

JX9500-2W 及び JX9500-4W において、18トラックフォーマットにて記録されたテープの、各社 18トラック装置との当社互換性実験の結果は、表 1 のとおりです。

表 1. 各メーカーとの互換実績

	A 社製装置	B 社製装置	C 社製装置	当社装置
オーバーライト (BOT からのライト)				
アペンドライト				

記録方法の項で示すように、36トラックヘッドによって記録されたデータを 18トラックヘッドで再生する場合、再生する領域が狭いことや、記録時と再生時とでヘッド位置が若干ずれていることから、18トラックヘッド再生装置の状態や使用を重ねたテープの媒体品質が原因で、読み取り不良等のトラブルが発生する可能性が高くなる場合があります。完全に互換性を保証するものではない事にご注意下さい。

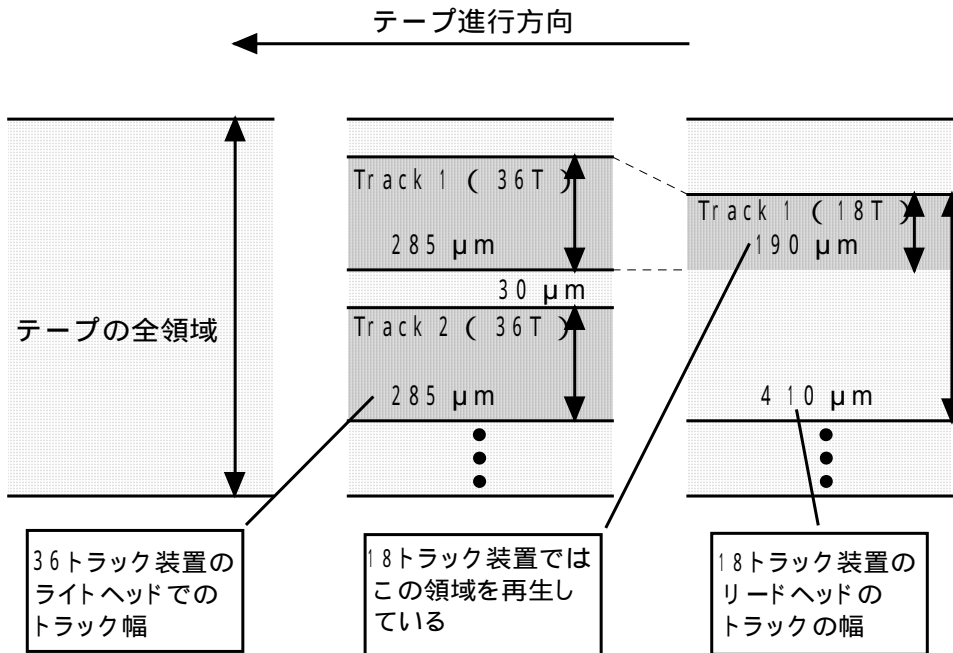
3. 記録方法

3 - 1. オーバーライト

既に 18トラック或いは 36トラックのデータが記録されているテープに、36トラックヘッドによって BOT (Beginning Of Tape) から 18トラックデータを記録する場合をいい、この場合先行するイレーズヘッドによって、既に記録されている旧データ領域を含むテープ全域をイレーズ後に新データの記録を行う。

この場合、36トラック装置では 36トラック中、奇数トラックで 18トラックのデータを記録し、偶数トラックではイレーズを行う。各ヘッドの位置関係を図 1 に示す。

図1 . BOTからの36トラックヘッドによる18トラックへの記録再生



イレースヘッドにてテープの全領域を消去する。

36トラックの奇数トラックのライトヘッドでIBM3480 準互換/3490 互換フォーマットでの記録を行います。

18トラック装置で の方法で記録を行ったテープの再生を行う場合のデータ再生領域

3 - 2 . アペンドライト

アペンドライトは、テープに記録されたデータの途中から、或いはデータの最後に新しいデータを書き足すもので、処理はデータブロック単位で行われます。

テープの途中に位置付けた時、イレースヘッドはライトヘッドより約 55 μm 先行している為、イレースヘッドにて消去できない領域が残ります。この為、この間はライトヘッドにてイレースパターンを記録してからデータの追加書き込みを行います。

この場合、隣接するライトヘッド間 (約 30 μm) に旧データの一部が残る可能性があり、再生時のマージンを低下させる要因となります。

18トラック装置で記録されたデータのアペンドライトは極力さけてご使用いただきますようお願いいたします。

図2 (ライトヘッドとイレースヘッドとの関係)

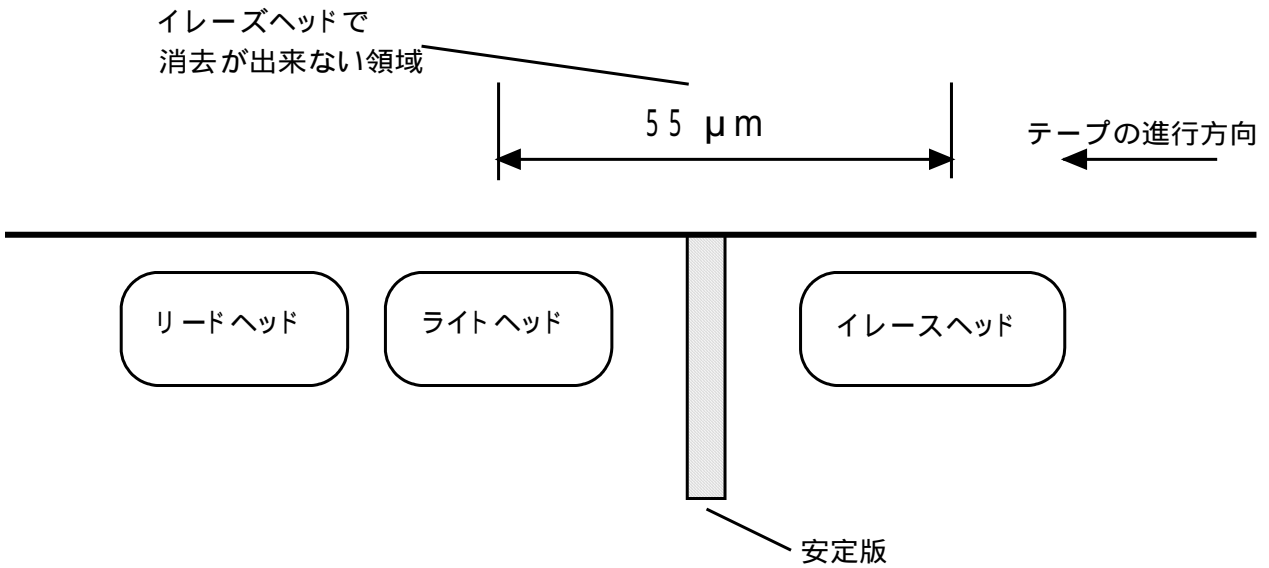
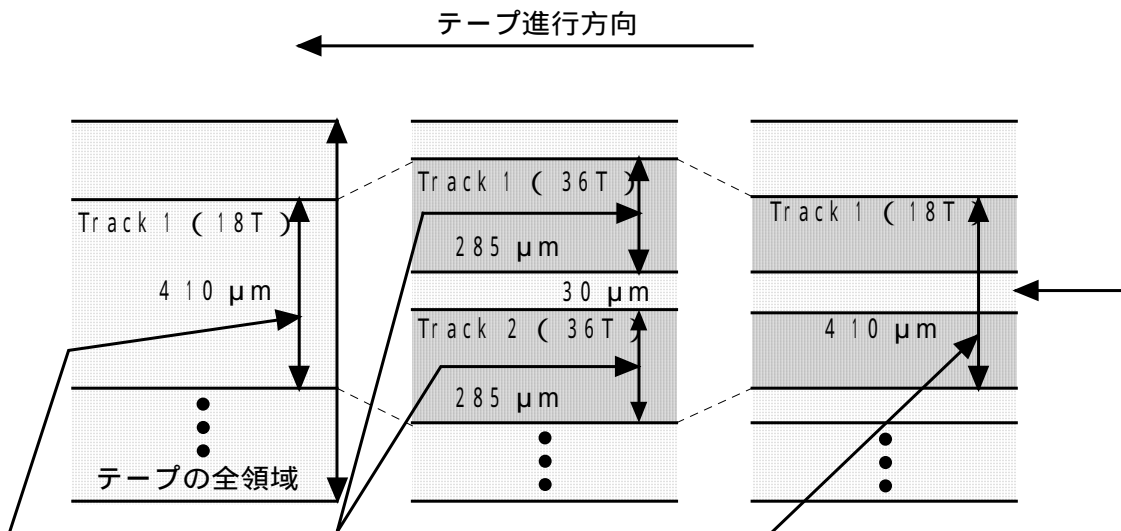


図3 . アペンドライトにおける36トラックでの記録領域と18トラックでの再生領域の関係



アペンドライト以前にかかれた18トラックの1トラックの領域に記録されたデータの再生領域。

アペンドライト開始から約100mmまで奇数トラック(1, 3, 5...)は、他社製品でも判別可能な

疑似データを記録し、偶数トラック(2, 4, 6...)はライトヘッドで消去を行います。

で記録した領域を他の18トラック機で再生した場合の再生領域。

の場合、未消去の領域(約30 μm)が発生しますが、36トラックの奇数トラック領域には他社製品でも判別可能な疑似データが記録されているので、再生はできません。